



心を育てる 絵本のすすめ

絵本って、お家で読んでいますか？

「絵本って読んだ方がいいんですか？」

「どんな絵本を読んで聞かせたらいいのかわかりません」

…など、あしびなあに来ている方からよくご質問頂きます。今月は、読み聞かせボランティア経験もある担当が絵本についてお伝えしていきます。お家で読む絵本を選ぶ参考にしてくださいね。

そもそもなんのために絵本を読むの？

大人が自分の教養や勉強のために本を読む事と、子どもに絵本を読み聞かせすることは、全く違います。

乳幼児にとって、絵本は「読み聞かせることでコミュニケーションツールになるもの」です。大人のあたたかい膝に乗って一緒に絵本のページをめくりながら、その声を聴く心地よさを感じて一緒にお話の世界を楽しむ…それが絵本です。そんな絵本を読み聞かせることは「心を育てること」とも言えますね。少し大きくなって、自分で見られるようになったら、文字が読めなくても絵をながめて楽しむ。文字が読めるようになったら、読んでわかる楽しさを味わう。そんなふうに絵本の楽しみ方は発達段階に応じて変わっていくもの。でも、大きくなってからも読んでもらう楽しさはずっと感じています。自分で読めるようになってからも読んであげたいですね。

読み聞かせに適した本を選ぶポイント

- ・言葉のリズムが耳に心地いい
- ・絵がはっきりしていて見やすい
- ・絵そのものに物語がある



0～1歳におすすめの本

- ・一緒にながめる本

「いっしょにあそぼ ししまぐるぐる」 作:かしわら あきお (学研)

- ・音と絵を楽しむ本

「もこもこもこ」 作:谷川俊太郎 絵:元永 定正 (文研出版)

「じゃあじゃあびりびり」 作:まついのりこ (偕成社)

- ・コミュニケーションを楽しむ本

「くだもの」 作:平山和子 (福音館書店)

「いないいないばあ」 作:松谷みよ子 絵:瀬川康男 (童心社)

「あがりめ さがりめ -おかあさんと子どものあそびうた-」 作:ましませつこ こぐま社



1～2歳におすすめの本

- ・一緒に身体を動かす本

「だるまさんが」 作:かがくい ひろし (ブロンズ新社)

「しろくまちゃんのほっとけーき」 作:わかやまけん (こぐま社)

- ・コミュニケーションを楽しむ本

「くっついた」 作:絵:三浦 太郎 (こぐま社)

「きんぎょがにげた」 作:五味太郎 (福音館書店)

「せんろはつづく」 文:竹下 文子 絵:鈴木 まもる (金の星社)

「なにをたべてきたの？」 文:岸田 衿子 絵:長野 博一 (佼成出版社)



3～4歳におすすめの本

「おばけのてんぷら」 作:せな けいこ (ポプラ社)

「どうぞのいす」 作:香山 美子 絵:柿本 幸造 (ひさかたチャイルド)

「わたしのワンピース」 作:西巻茅子 (こぐま社)

「きょだいなきょだいな」 作:長谷川 摂子 絵:降矢 なな (福音館書店)

5～6歳におすすめの本

「おいしいのぼうけん」 作:ふるたたるひ たばたせいいち (童心社)

「ふたりはともだち」 作:アーノルド・ローベル 訳:三木 卓 (文化出版局)

「きょうはなんのひ」 作:瀬田 貞二 絵:林 明子 (福音館書店)

「これはのみのぴこ」 作:谷川 俊太郎 絵:和田 誠 (サンリード)